

日本海事財団  
平成2年度補助事業

九州経済圏とアジアNIESを結ぶ海上  
貨物輸送体系の整備に関する調査研究  
(中間報告)

平成3年3月

財団法人 九州海運振興センター

## は し が き

本報告書は、当センターが日本海事財団の平成2年度から2ヵ年にわたる補助事業として実施を計画した「九州経済圏とアジアNIESを結ぶ海上貨物輸送体系の整備に関する調査研究」の平成2年度研究成果を中間報告の形でとりまとめたものである。

近年、我が国の産業構造の変化、国際水平分業の展開等により韓国をはじめとするアジアNIESからの製品輸入が着実に増加している。

このような製品輸入の増大に伴って九州の主要港湾では在庫管理や品質管理、流通加工等といった、従来の輸出対応型の港湾機能とは異なった高度な物流サービスの提供が求められているとともに、新たな航路の開設や海上貨物のコンテナ化に対応した港湾づくり、あるいは効率的な国際複合一貫輸送のシステムの形成といったものが必要となってきた。

また、製品の輸入増大傾向は、今後とも我が国の輸入促進政策や消費者ニーズの多様化等により、長期的に継続することが予想されており、アジアNIESとの歴史的、地理的特性を有する九州・山口経済圏が東アジアに開かれた我が国のゲートウェイとしての役割を担うことにより地域の振興を図ることは多極型国土形成を図る上でも重要なことである。

本調査研究は、このような状況の中で地域の発展と港湾の振興に資するため、初年度はアジアNIESとの海上コンテナ貨物流動の特性と九州経済圏の課題や、九州経済圏域での輸入製品の展示即売機能や商流機能などを併せ持つ国際物流センターの構想等を検討したが、次年度は、本年度調査結果を踏まえ、さらに新たな調査を実施し、九州・山口経済圏におけるアジアNIESとの海上貨物輸送体系の整備等のあり方についての検討を加えることにしており、この報告書が関係の方々にいささかなりともご参考になれば幸いである。

おわりに、本調査研究を実施するにあたって終始ご指導、ご協力をいただいた北九州大学の白石産業社会研究所長・教授、九州大学の徳永教授をはじめ委員各位・関係官公庁並びに調査に多大なご協力をいただいた関係の方々に、深く感謝の意を表する次第である。

平成3年3月

財団法人 九州海運振興センター  
会 長 邑 本 義 一

『九州経済圏とアジアNIESを結ぶ海上貨物輸送体系の  
整備に関する調査研究』

委 員 名 簿

(順不同 敬称略)

委員長	白石 馨	北九州大学産業社会研究所所長・教授
委員	徳永 正二郎	九州大学経済学部教授
〃	堀本 和木	門司税関総務部統括調査官
〃	藤田 武彦	第四港湾建設局企画課長
〃	川下 拓三	長崎県企画部長
〃	中村 利雄	鹿児島県企画部長
〃	吉田 哲	大分県企画総室長
〃	須野原 豊	北九州市港湾局企画開発部長
〃	井福 周介	福岡市港湾局計画部長
〃	関谷 省己	下関市港湾局次長
〃	野田 博	(社)九州・山口経済連合会調査部長
〃	野畑 昭二	関門港運協会会長
〃	八尋 脩	博多港運協会会長
〃	城野 順治	九州地方倉庫業連合会会長
〃	大重 秀夫	九州冷蔵倉庫協議会会長
〃	堀山 收造	(社)日本海事検定協会九州支部次長
〃	角川 敏行	三井物産(株)九州支社運輸部長
〃	田納 郁也	日本郵船(株)九州・門司支店長
〃	(前田 利祐)	
〃	岡田 正記	大阪商船三井船舶(株)九州・門司支店長
〃	津田 幸治	日本貨物鉄道(株)取締役九州支社長
〃	小亀 房之	山九(株)北九州支店長
〃	田中 邦穂	日本通運(株)九州支店業務部長
〃	福本 秀爾	九州運輸局企画部長

幹 事	岡 崎 宏 (末 次 継 一)	九州運輸局企画部貨物流通企画課長
“	山 村 一 眞 (岡 崎 宏)	九州運輸局運航部港運課長
“	古 賀 信 宏	九州運輸局運航部倉庫課長
事 務 局	船 本 眞 二	九州運輸局企画部貨物流通企画課補佐官
“	富 迫 昭 吉	九州運輸局企画部貨物流通企画課 流通企画第一係長
“	弘 中 吉 昭	(財)九州海運振興センター調査役
集計解析	亀 田 勝 好	(株)日通総合研究所経営研究部 流通システム研究室研究主査
“	齊 藤 実	(株)日通総合研究所経営研究部 経営分析研究室研究員
“	菅 直 往	(株)日通総合研究所経営研究部 労働科学研究室研究員

\* ( ) は上記委員等の前任者

『九州経済圏とアジアNIESを結ぶ海上貨物輸送体系の  
整備に関する調査研究』

作業委員会委員名簿

(順不同 敬称略)

委員長	徳永正二郎	九州大学経済学部教授
委員	藤田武彦	第四港湾建設局企画課長
〃	須野原 豊	北九州市港湾局企画開発部長
〃	井福周介	福岡市港湾局計画部長
〃	関谷省己	下関市港湾局次長
〃	戸田利紀	大阪商船三井船舶(株)門司支店副支店長
〃	堀山收造	(社)日本海事検定協会九州支部次長
〃	白石 明	門司港運(株)取締役港運部長
〃	山下徳二	相互運輸(株)取締役総務部長
〃	桑原令次	(株)ニチレイ九州冷凍支社営業課長
〃	今嶋 修	日本通運(株)九州支店調査役
〃	上玉利繁夫	日本貨物鉄道(株)九州支社営業課長
〃	福本秀爾	九州運輸局企画部長
〃	岡崎 宏	九州運輸局企画部貨物流通企画課長
	(末次 継一)	
事務局	弘中吉昭	(財)九州海運振興センター調査役
集計解析	亀田勝好	(株)日通総合研究所経営研究部 流通システム研究室研究主査
〃	齊藤 実	(株)日通総合研究所経営研究部 経営分析研究室研究員
〃	菅 直往	(株)日通総合研究所経営研究部 労働科学研究室研究員

\* ( ) は上記委員等の前任者

# 目 次

序章 調査の概要 .....	1
第1章 アジアNIESの経済成長と九州経済圏との貿易動向	
第1節 アジアNIESの経済成長 .....	7
第2節 九州経済圏とアジアNIESとの貿易拡大 .....	16
第3節 九州経済圏におけるアジアNIES貿易の将来展望 .....	31
第2章 アジアNIESとの海上コンテナ流動の実態	
第1節 九州対アジアNIESのコンテナ流動の実態 .....	37
第2節 九州発生（集中）貨物の流動実態 .....	49
第3節 九州地域港湾の背後圏の現状 .....	55
第4節 品目別コンテナ流動および背後圏 .....	59
第5節 外貿海上コンテナ貨物流動の特性と課題 .....	67
第3章 国際複合一貫輸送の展開	
第1節 国際複合一貫輸送の概況 .....	73
第2節 九州経済圏における国際複合一貫輸送の展開 .....	83
第3節 九州経済圏の主要港湾を拠点とした国際複合一貫輸送の展望 .....	96
第4章 国際物流センター構想の検討	
第1節 九州北部の港湾が抱える問題と課題 .....	101
第2節 新たな港湾整備への要請 .....	106
第3節 国際物流センター整備の方向 .....	112
第4節 今後の課題 .....	119
第5章 中間報告のまとめ .....	121
参考資料 「全国輸出入コンテナ貨物流動調査」集計結果 .....	127

詳細は当センターへお問合せ下さい

**(財)九州運輸振興センター**

電話 : 092-451-0469

e-mail : info@kyushu-transport.or.jp